

# スポーツの力



「サーブ打ってくる。」

土曜日の朝六時半ごろ、高一の長男はバレー・ボールを持って公園に出かけました。歩いて十分ほどのところにバレーやバスケ、それからタイらしくセパタクローのコートを備えた公園があるのです。朝食も食べていなかつたし、一人だし、小一時間で帰つくると思つていました。

ところが帰つてきたのは昼近く。聞けば、コートに行つたらすでにタイ人グループの先着がいて、仲間に入れてもらつた、というのです。

「明日も来い、って言われたから行くわ。」  
それからというもの、毎週土日は朝早くから公園に行き、バレー・ボールを楽しんでくるようになりました。タイ人の友達を作りたいと思っている私は何か月たつてもできなかつたことを、長男はいとも簡単に！ スポーツの力は偉大です。

今ではバレー仲間がいない平日で

うと、三種類のボールを持つて公園へ。ナップサックにバレー・ボールとバスケットボールを無理やり詰めて背負い、手には彼が小学生の頃に私が手作りしたサッカーボールバッグを持つて。大人と変わらない体格の高校生が持つにはアンバランスで不格好ですが、本人はなんとも思わない様子。学校のカバンを投げ置いて公園に急ぐ様子も、まんま小学生です。  
そんなに公園にハマるなら、オンライン授業で悶々としている期間にこそ、公園に行って発散してきてくれればよかつたのに。実際に、「気晴らしに公園にでも行ってくれば」と何度もか促したことがありましたが、その時は一度も行きませんでした。それで悶々とし続けていました。学校が開いて、登校するようになつたことがきっかけで、長男の気持ちは急激に外に向き始めました。

逆に言えば、長く続きたオ

ーですが、ティーンズのおしゃべりに入していくのは英語的難易度高し。孤立した状況が続いていました。

長女の超マイペースな性格もあり、学校に行きたくないとまでは言わなかつたのですが、さすがに辛そう。私から先生に相談すると、クラス移動をさせてくれることに。そんな展開になるとは驚きましたが、こちらから何も言わなければ、娘は間違いく前のクラスのまま。海外では何でも自分から言わないといけなかつた、そういう感覚を思い出しました。

娘は新しいクラスで、自分の英語の拙さを待つてくれる友達に出会えたようで、ほつとしています。

ライン生活はやはり異様な状況だったのだと思います。振り返つてみて気付いたことです。子供たちも私自身も一日一日わずかずつ、億劫で臆病に変わっていっていました。もしオントラインがずっと続くのであれば、それが人格になつてしまふのだろうなと思います。

## 男子と女子の休み時間

長男と長女はインターナショナルスクールに入ったものの、編入以来オンライン授業のみだったので、英会話は上達しないまま初登校。  
しかし長男には小学生の頃にアラジルの現地校に通つた記憶が残っています。「言語に困つたらサッカー」という法則をすでに体得済。タイの学校の昼休みにもそれを実践して友達作りをしたようです。

一方、女子は休み時間にひたすらおしゃべりしているだけ。グループもすでに出来上がっています。長女は中

文・写真  
小宮華寿子  
二男一女の母で  
編集者。「プラ」と  
ジルの手しごと  
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と  
ワークショップの店「マルカジーニョ」  
(https://mercadinho.net)代表。

イラスト・  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆれる北欧風手作りモビ  
ール」(ネコ・パブリッシング)を監修。